

吉野川流域における方言の動態 (3)

石田 祐子¹⁾

1. はじめに

徳島市～池田町間における吉野川南岸地域を対象としたグロットグラム調査結果をすでに岸江ほか(1999)で報告した。一方、仙波ほか(2000)では、グロットグラム調査結果と、1999年に行われた徳島県下での言語地理学的調査の結果との比較・対照を中心に課題にした。ここではこれらに加えて、徳島県全域が対象とされている森(1962)の言語地図図Ⅰ・Ⅱを紹介する。森のデータと比較することによって、吉野川流域における約50年の言語変化の動態をリアルタイムにみることができる。

2. 吉野川南岸の方言の動態

調査結果については現在、グロットグラム表を作成中である。全162項目のうち、これまでに98枚が完成している。その中から代表的なものを取り上げ、方言の地域差や世代差について検討し、さらに森重幸(1962)図Ⅰ・Ⅱで取り上げられた項目と比較・対照したい。

2-1. 世代差も地域差もないもの

- (1) 壊れた(メゲタ) (2) おもしろい(オモッショイ) (3) 買った(コータ)
(4) すねる・つむじをまげる(ドクレル)

これらは徳島～池田間のほぼ全地点全年代に使われており、世代差、地域差ともに無いといえる項目である。標準語形も散見されるが、今のところは大した変化のきざしは見えず、方言形が安定して使われている。

2-2. 衰退が進んでいるもの

- (1) 寝る・お休みになる(ゲシナル)] 表1

もともと「御寝なる(ぎょしんなる)」という言葉で、寝るの尊敬語である。実際に使うと答えた人はなく、ほぼ生活語としての役割を終えている。すでに老年層以上に記憶されているだけの過去の言葉になっている状態である。

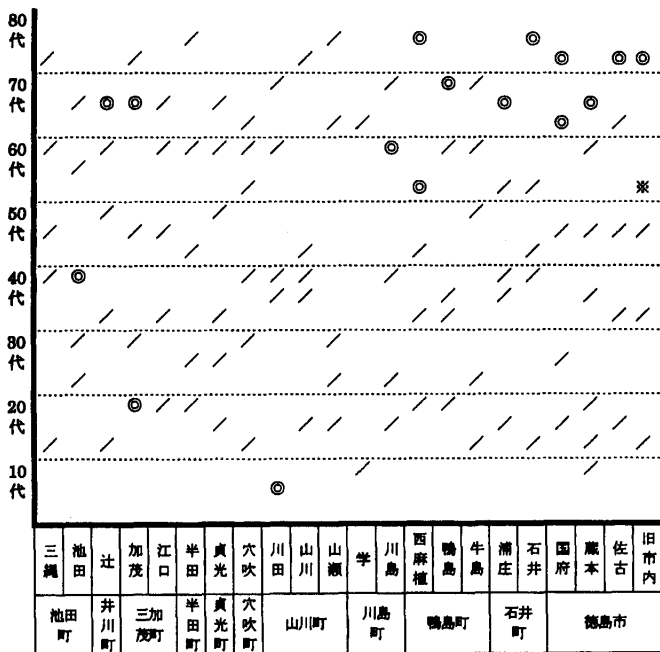
1) 徳島大学大学院人間・自然環境研究科

吉野川流域（徳島市～池田町間）方言グロットグラム

徳島大学国語学研究室
1998

【項目名 ゲシナル】

質問：「寝る・お休みになる」というのを、例えば、「おじいさん、もうゲシナツルかいな」というように「ゲシナル」ということがありますか？



凡例

◎ 普通うのを聞いたことがある ※ 自分は使わないが使うのを聞いたことがある
/ 聞いたこともない

表1

(2) かまきり (ホトケンマ) 表2

上野 (1997) 収録の、森氏の昭和30年代の調査資料から作図されたカマキリの方言分布図を見ると、数多くの語形が県内各地に存在していることが分かる。吉野川流域に視点を向けると、この時点ですでに徳島市を中心とした地域から、標準語形である「カマキリ」が吉野川沿いに上流へ、また海沿いに南部地域へ放射状に進出しつつあることが分かる。しかし、この段階ではまだ吉野川中流域以西はホトケ系の「ホトケンマ」が健在であり、池田町付近

ではイボジ系、トーロー系など他の系統の語もみることができる。

ところが今回のグロットグラム調査では、美馬郡を中心としたわずか4人の老年層だけが「ホトケンマ」と答えたに過ぎず、ほぼ全員が標準語形の「カマキリ」と答えている。すべての方言形が消滅しつつあるようである。これは、日常生活で使う頻度が少ない上、図鑑や教科書を通してこの虫の名を覚えることが主になったからではないだろうか。

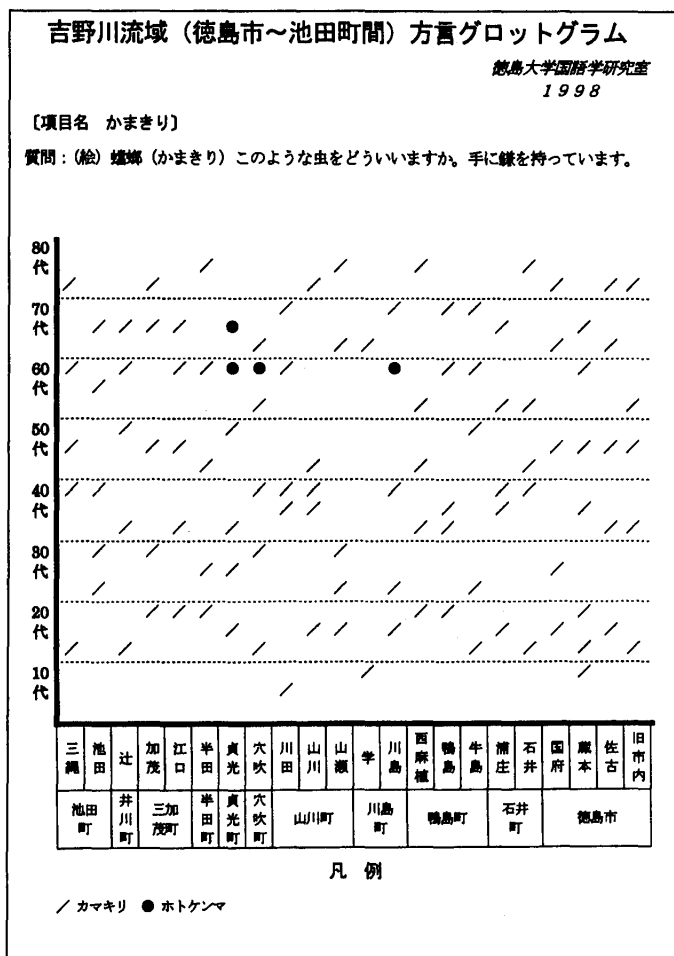


表 2

2-3. 世代差のあるもの

項目によって差があるものの、ほとどの項目についても言えることは、若年層には地域に関係なく標準語形が表れだしてきていることである。

ここでは、中年層以上ではよく使われている反面、徳島市近郊の若年層を中心として「使用しない」「聞いたこともない」という回答が多いものをあげる。これらの語句は今度着実に標準語化が進んでいくのではないかと考えられる。

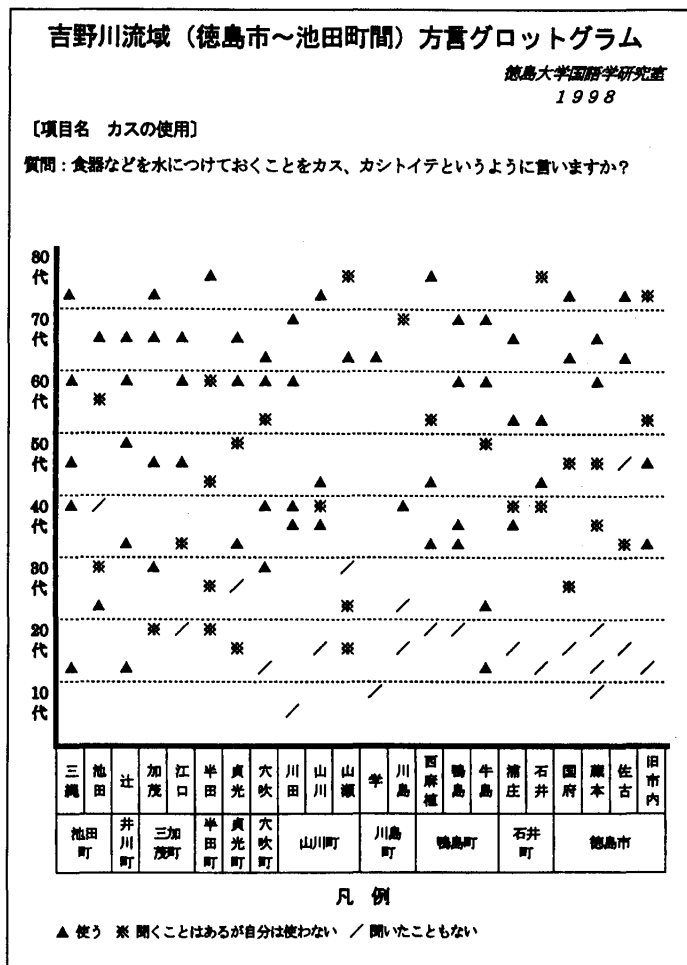


表 3

(1) 食器などを水につけておくこと（カス）の使用 表 3

これは、年齢が下がるにつれ使うと答える人が減っている項目である。聞くことはあっても自分では使わないという人の割合が徐々に増え、20代と30代を境にして「聞いたこともない」と答える人が激増している。同様の傾向を見せる項目としては、「シリウチ」（どろ道を歩いたときに跳ね上がった泥・はね（どろ）の意味）がある。

また、この傾向が30年ほど早く進んでいるものに「一つワテ」（一つずつの意）があり、50代と60代の間に境界線を引くことができる。

2-4. 地域差のあるもの

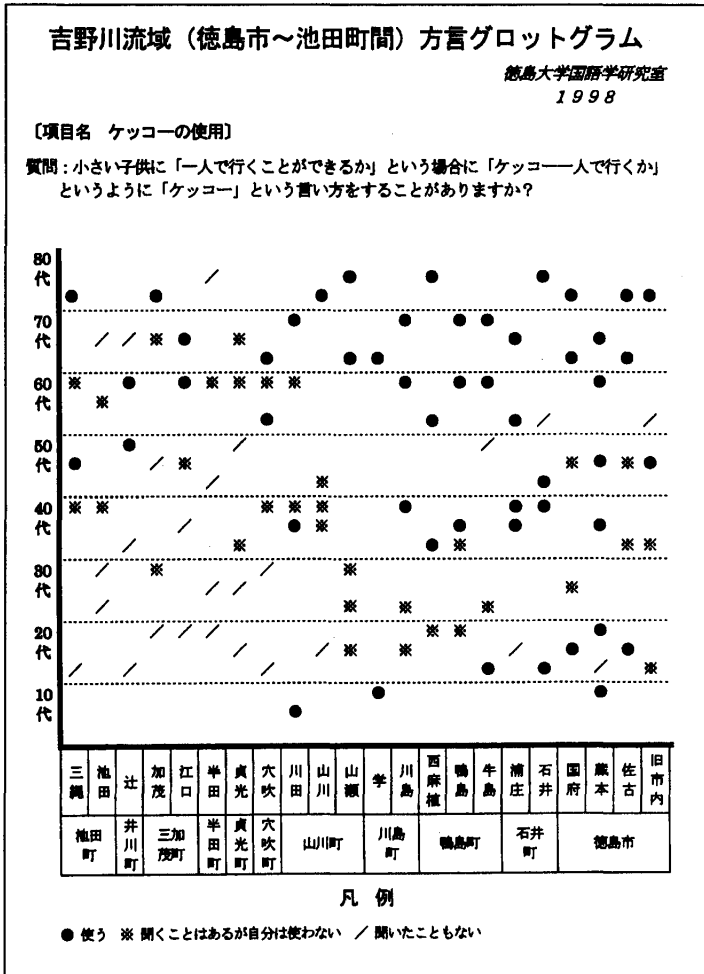


表 4

吉野川南岸地域において、山川町と穴吹町の間いくつかの方言境界線が認められることは前回までも述べてきた通りであるが、ここではその点を含めさらにいくつかの項目を取り上げることにしたい。

(1) 可能・不可能表現

①ケッコ (-) 表4 ②ミジョ (-) 表5

徳島県の可能表現には、主に「ヨー」「ケッコ」「ミジョ」の三種類がある。(ケッコ、ミジョは、ケッコー、ミジョーとのばす場合もある。) そのうち、「ヨー」は全県的に使われるが「ケッコ」と「ミジョ」には、地域的な対立がある。

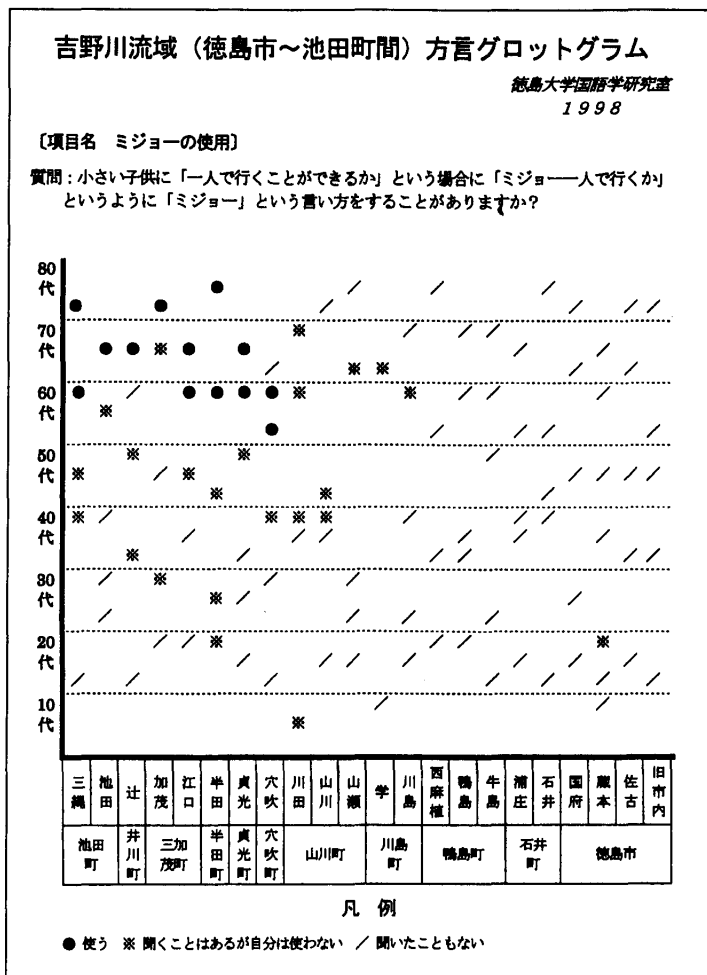


表5

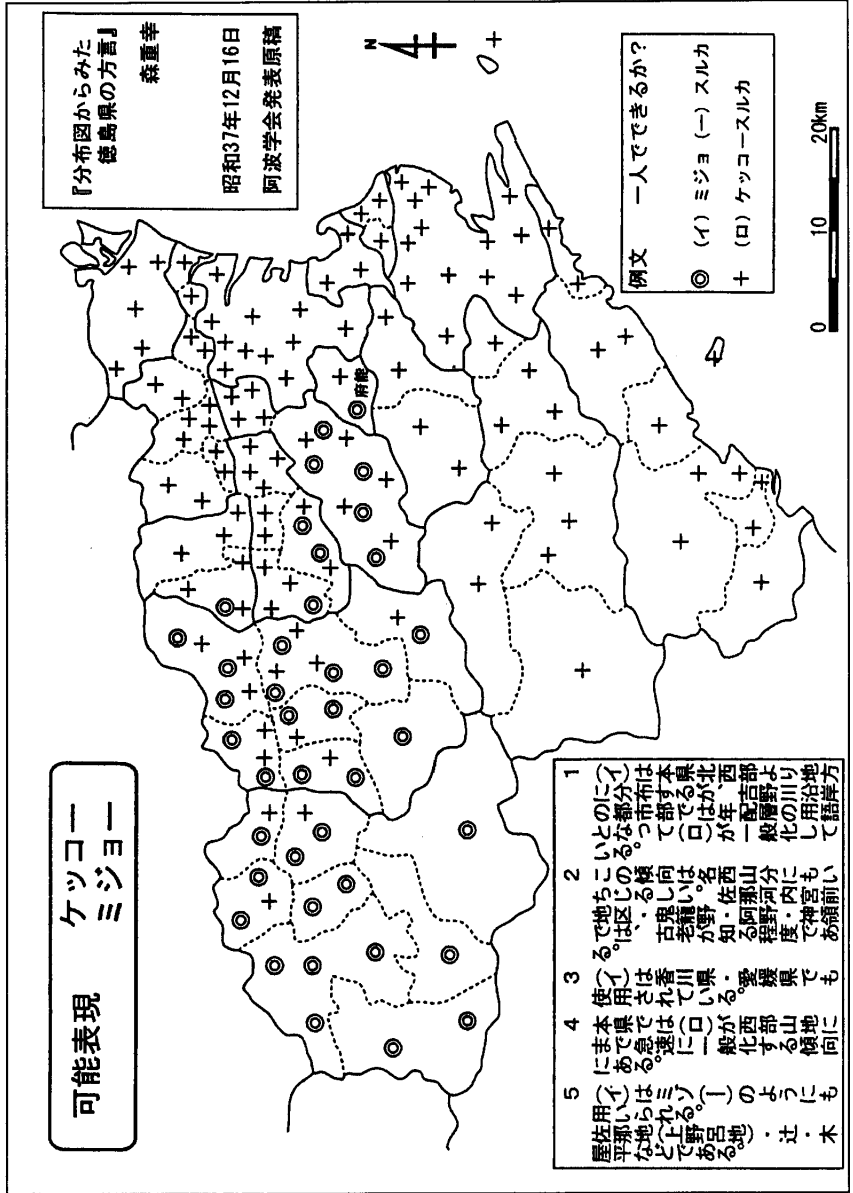


図1 (森 1962 を基に作図)

森重幸(1962) 図Ⅰによると、「ケッコ」は県南全域と、徳島市を中心とした地域に、「ミジヨ」は美馬・三好郡内に使用が限定されている。そして吉野川を遡り、県西平野部へ「ケッコ」が進出している様子が見られる。このように、「ミジヨ」には昭和30年代当時からすでに衰退の傾向が現れている。

グロットグラム調査の結果を見ても、「ミジヨ」は穴吹以西の老年層以上でしか使われていないことが分かる。しかし、逆にこの地域では「ケッコ」を使うようになったのかといえそうではなく、中年層以下の回答では聞いたこともないという回答で殆どを占められている。「ケッコ」は池田町まで進出はしたものの、すでに「ヨー」が使われていたために、定着しなかったようである。

「ヨー」と「ケッコ」、「ヨー」と「ミジヨ」はそれぞれの地域で平行して使われている。それは、「ヨー」が、不可能表現にも使えることによるのであろうか。金沢(1961)には、「ミジヨーセン」、「ケッコセン」の例があり、不可能表現としても使えるような記述があるが、のちの金沢(1976)では、「ケッコ ミジヨの時は打消は使わぬ」とされている。以上、「ヨー」が最も使用地域、範囲共に広いために「ケッコ」「ミジヨ」が衰退していると言えるのではないだろうか。

(2) なくなる(ノーナル・ナシニナル) 表6

この項目も、山川・穴吹間の境界線によって、はっきりと東西の語形に違いがでている典型的な項目である。但し若年層では、地域に関係無く標準語形の「ナクナル」の回答が目立つ。

森重幸(1962)には「(ものが)なくなる」の項目もあるが、地図が未完成の様子であるためここには挙げなかった。かわりに図Ⅱの「(ものを)なくする」を取り上げるが、他動詞と自動詞の違いだけであり、比較に大きな支障はないものと思われる。

また、「(ものが)なくなる」の地図には「ナシニナルは吉野川水系、特に美馬郡・三好郡で多用される」との記述があることに触れておく。

図Ⅱでは、+の記号に「ナシニスル」「ウシネル」「ウスネル」がまとめられているのが問題であるが、「ナシニスル」が美馬・三好郡内で主に使われているということは地図中の文によっても明らかである。吉野川下流地域にも+は存在するが、これが「ナシニスル」なのか「ウシネル・ウスネル」なのかは判断できない。「ノーナス」「ノーナカス」は、徳島市を中心に下流の平野部に広がっているようである。

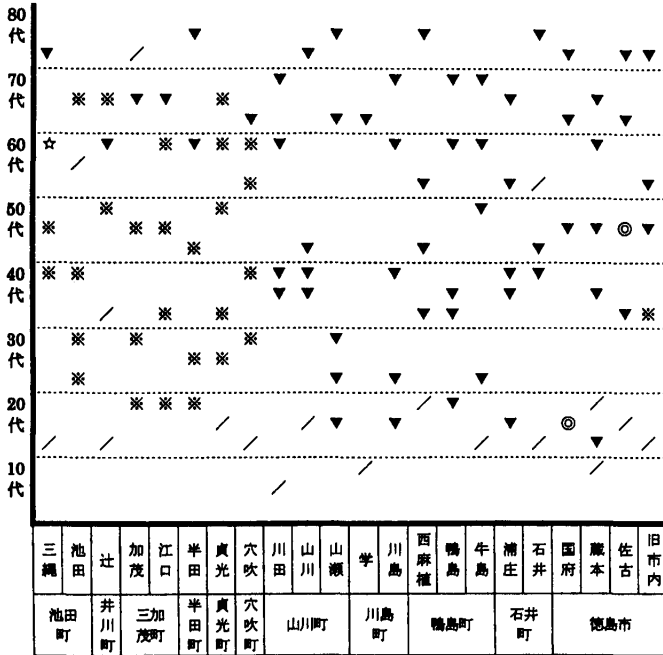
「ノーナス」「ノーナカス」を使う地域では「ノーナル」を、「ナシニスル」を使う地域では「ナシニナル」を使っていたはずである。つまり、吉野川下流域の+が「ウシネル(ウスネル)」であるのなら、この語については50年の間、使用地域の変化が起らなかったのだと言えるだろう。逆に下流域の+が「ナシニスル」なのであれば、下流域の「ナシニスル・ナシニナル」は「ノーナス・ノーナル」に駆逐されたと考えられる。

吉野川流域（徳島市～池田町間）方言グロットグラム

徳島大学国語学研究室
1998

〔項目名 なくなる〕

質問：「方言もだんだんなくなるねえ」という場合、「なくなる」の部分はどう言いますか。
(なくなる)



凡 例

▼ ノーナル / ナクナル ◎ ナイヨーニナル ※ ナシニナル ☆ 他語形

表 6

2-6. 世代差と地域差のあるもの

徳島県の文化の中心は徳島市である。そのため徳島市を中心として、新しい言葉も広がっていく場合が多い。吉野川流域においても、徳島市から新しい語形・語法が上流へ向けて遡っており、新しいものを受け入れやすい若い世代から、標準語形、または新しい形の言葉の受容と方言形式の衰退が進んでいる。

その様子が最も明確に表れている項目を次に挙げる。

(1) 赤くない (アコーナイ・アカーナイ) 表7、図Ⅲ、図Ⅳ

当地域での本来の形は、ウ音便形である「アコーナイ」で、壮年層以上では未だ優勢を保っている。しかし、徳島市から若年層を中心として「アカーナイ」の形が広がっており、市内近郊では中年層にも広がりつつある。形容詞のク活用で、語幹尾の母音がaの場合、すべて同じような変化を起こしていると思われる。

グロットグラムと共に、徳島県下での言語地理学的調査の結果を次にあげる。

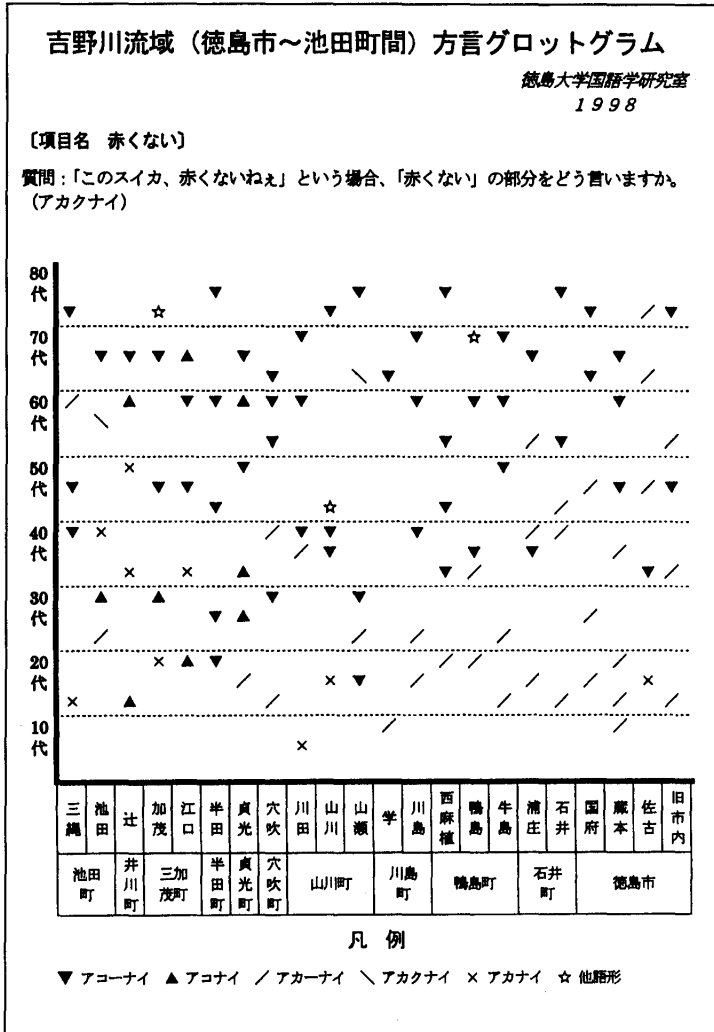
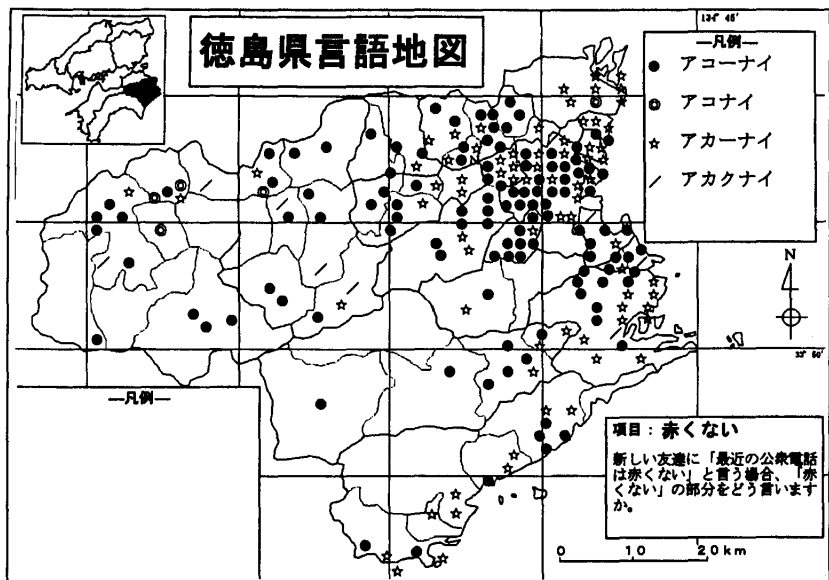
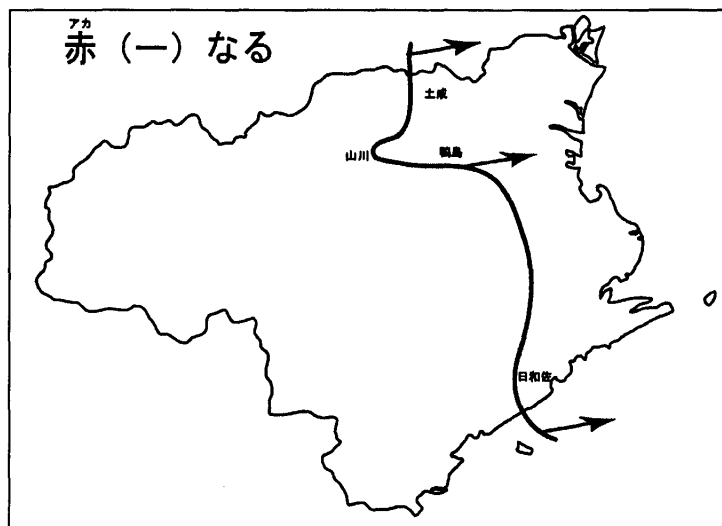


表7



図Ⅲ



図Ⅳ 森 (1982) 図 5 より作図

このア音便形については、佐藤 (1995) 等によって大阪などに、土居 (1975) では今治市と鳴門市、鎌田 (1995) では但馬、洲本の成人にも現れていることが示されている。

国立国語研究所編『方言文法全国地図第3集』第137図 高くない(否定形)を見ると、〈takaanai〉は淡路島等に見られるものの徳島県下は〈takoonai〉、〈takonai〉、〈takoowanai〉といったウ音便形のみである。しかし、宮城(1956)によれば、県南海岸部や鳴門市において「タカー(ナイ)」である旨の指摘があり、金沢(1950)にも、北方(吉野川流域)で「アコウなる」南方で「アカアなる」との記述がある。土居(1975)でも鳴門市にあるとされている。

さらに森(1982)においても(図Ⅳ)、地図中に「赤(一)なる」の県東平野部での使用が示されており、図Ⅲと比較すると、「アカーナイ」の使用される範囲が約2~30年の間に吉野川流域ではほぼ変化しておらず、県南部への進出の方が早い傾向が見える。但しグロットグラム表からは、若年層を中心に徐々に美馬郡へ広がりつつある様子がわかる。

このア音便という形の発生する要因として、井上(1995)では「形容詞形活用の音便化の単純化」、佐藤(1995)では「語幹尾音の形態上の統一」などの説が述べられている。

ここでは、「語幹をそのまま伸ばす方向への変化」と考えたい。ウ音便では「薄くない」「白くない」などの場合には「ウスーナイ」「シローナイ」となり、語幹をそのまま伸ばせば良い。それに比べ「赤くなる」「痛くなる」の場合のみは「アコーナル」「イトーナル」のように語幹を変化させる必要がある。そこから、すべて語幹を引く方向にシフトさせることによって、形容詞の単純化が図られたと考えることが出来る。この変化を起こす背景には語幹の変化しない標準語形の「アカクナル」の干渉も考えられるだろう。

しかし、ウ音便形から一気に非音便形である標準語形へと変化することはなかったのである。この要因としては標準語形への抵抗が関わっているのではないだろうか。方言的な特色を残しつつ標準語に近づいたために、標準語化への緩衝材の役割として中間方言である「ア音便形」が発生したのだと考える。

このウ音便から新形のア音便へと変化する次の段階としては、標準語形になることが考えられ、大阪ではすでに若い世代で標準語形が優勢な状況であるが、徳島県においてはまだその兆候は見られないようである。それは「買った(コータ)」のような項目でいまだ若年層においてもウ音便自体が盛んに使われているからである。これらの語句が非音便形に動き出すとき、このア音便形の語句も非音便形へと変わって行くに違いない。

3. おわりに

グロットグラム調査の結果から、いろいろな分布の形態を紹介した。若年層には地域差に関係なく全地域ほぼ一斉に標準語系の語形が現れだしてきていることや、山川・穴吹間での対立はいまだ根強く残っている様子などが再確認できた。

また、過去の言語地図とも比較することによって、言語変化の様子を動的に把握することが出来た。今後も継続して言語変化の様子を見つめて行きたい。

〈参考文献〉

- 井上史雄（1995）「東海道沿線における東西方言の交流一文法の新方言一」『関西方言の社会言語学』世界思想社
- 上野和昭（1997）『徳島県のことば』日本のことばシリーズ36 明治書院
- 金沢治（1961）『阿波青葉の語法』徳島市中央公民館付属図書館
- 金沢治（1976）『改訂 阿波言葉の辞典』小山助学館
- 鎌田良二（1995）「近畿・中国両方言の表現形式の地理的分布」『関西方言の社会言語学』世界思想社
- 岸江信介・野田和子・林美佳・川島竜太・石田祐子（1999）「吉野川流域における方言の動態（1）」『徳島大学国語国文学第12号』徳島大学国語国文学学会
- 国立国語研究所（1994）『方言文法全国地図第3集』大蔵省印刷局
- 佐藤虎男（1995）「音便形に見る大阪弁の動態」『関西方言の社会言語学』世界思想社
- 仙波光明・岸江信介・石田祐子・山脇さや香（2000）「吉野川流域における方言の動態（2）」『徳島大学国語国文学第13号』徳島大学国語国文学学会
- 土居重俊（1975）「四国の方言」『方言と標準語 日本語方言学概説』筑摩書房
- 宮城文雄（1956）「徳島方言概観」『徳島大学学芸紀要（人文科学）5』徳島大学学芸学部
- 森重幸（1962）『分布図からみた徳島県の方言』阿波学会発表資料
- 森重幸（1982）「徳島県の方言」『講座方言学8 中国・四国地方の方言』国書刊行会

本稿は、「吉野川南岸における方言の現在」と題して徳島大学国語国文学会第22回研究会（1999. 6.26）で発表した内容を基としている。